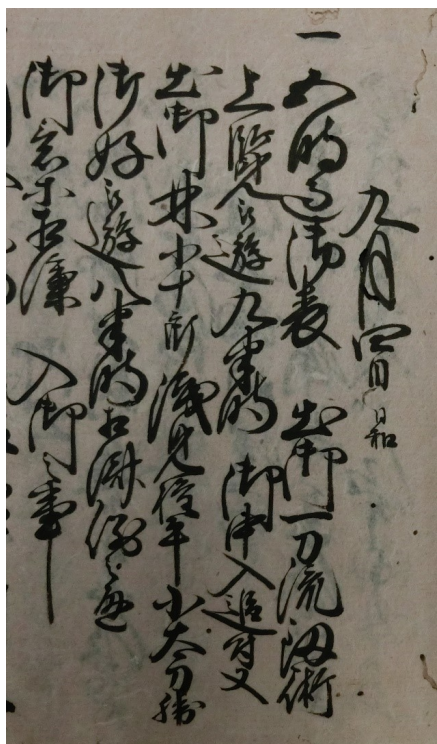




九月四日 日和
一、五時過御表 出御、一刀流劔術
上覧被遊、九半時 御中入、追付又
出御、林小十郎・浅見権平小太刀勝
御好被遊、八半時相済、例之通
御意等相済、入御之事、

文書館資料

武芸・体育・
スポーツと



➤ 5

「御居間日記」 文化11年9月4日条（徳山毛利家文庫「御居間日記」457）

きたえる 5

徳山藩主の武芸上覧（1）

《藩主上覧》

藩主が藩士の日頃の鍛錬の成果を直に確認することを上覧と言います（シート3参照）。徳山藩においても藩主上覧は盛んに行われていました。

例えば、8代藩主毛利広鎮期にあたる文化年間(1804～1818)の場合、国元・徳山においては、藩主在邑中、おおむね8月から10月と、1月から3月にかけて行われています。上覧の対象となるものは、剣術（「一刀流」、「無念流」、「無方流」）・鎗術（「無方流」、「種田流」）・砲術・馬術・弓術といった武芸と、小笠原流礼法がありました（このほか、藩士が藩主に披露するものに「兵学講釈」がありました。資料上、これは上覧ではなく、「上聴」と記されています）。このうちの武芸の上覧はどのように行われたのか、具体的な様子を見ていきましょう。

《武芸上覧》

おおむね8月から10月に行われる徳山藩の武芸上覧は、剣術・鎗術は徳山の館内、砲術は遠石浜、馬術・弓術は馬場で行われていました。

藩主の上覧であることから、家老をはじめ、多くの藩士も見学することが通例です。

また上覧に先立ち、武芸を披露する競技者名簿が藩主に差し出されています。

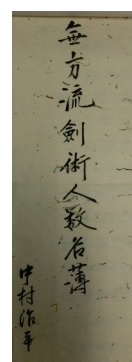
《文化期の武芸上覧》

ここでは文化11年(1814)の事例を中心に見ていきます。上覧の行われた日には裏面の【表】のとおりです。

〔剣術〕

剣術の上覧は、9月4日・9月7日・10月9日の3回にわたって行われています。それぞれ流派も記されており、流派ごとに上覧日が異なっていたことが窺えます。

9月4日の「一刀流」上覧の場合、広



無方流劔術人数名簿
（徳山毛利家文庫
「土民方」47）

無方流は徳山藩で広まった剣術の一派です。中を見ると単なる門人帳ではないので、上覧時などに差し出される競技者名簿の可能性もあります。「中村治平」は「無方流」の師範です。

鎮は「五時」(午前八時前後)から「八半」(午後三時前後)、休憩を挟んで見学しています。半日近くに及んだ上覧だったことが窺えます。

また9月7日の無念流剣術の上覧の様子から、広鎮は試合を好んでいたことが窺えます。休憩時間の際、帳面を差し出したとあることから、この帳面は対戦表だったと推測されます。対戦表を見ながら勝負に熱中する広鎮の様子が想像されます。

〔鎗術〕

10月11日に行われた鎗術の上覧は、無方流と種田

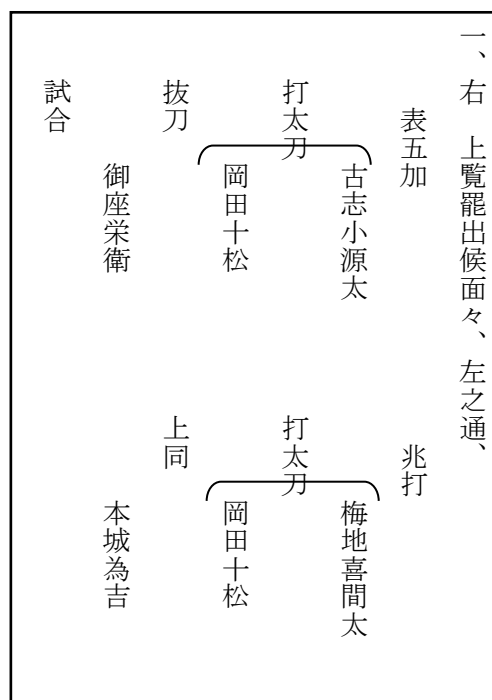
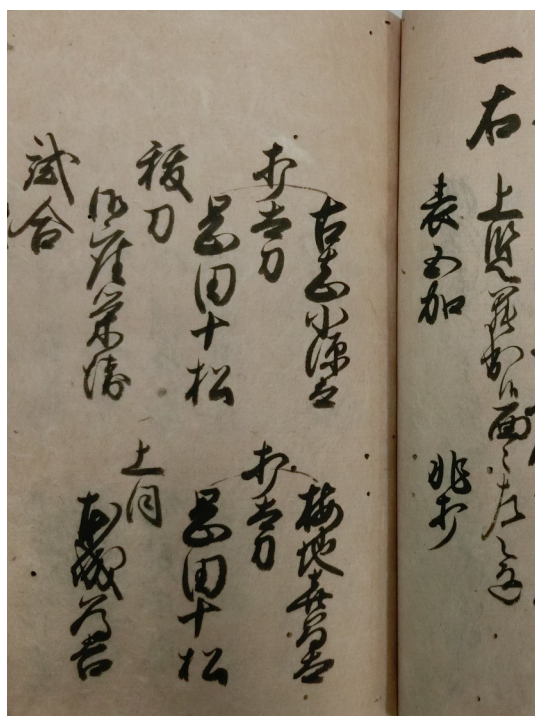
流の二派を一日で実施しています。「無方流」師範玉井宅之進、「種田流」師範古志小源太をはじめ、多くの門弟が参加しています。

また、上覧にあわせて藩士たちから拝見の伺いが出され許可されています。加えて種田流師範の古志小源太からも、門弟に無方流鎗術を拝見したい旨伺いが出され許可されています。師範も技を披露する藩主の上覧は、藩士にとって一流の技を目にすることのできる絶好の機会となっていたでしょう。

上覧が終ると、藩主から、ねざらいと一層の習練についての言葉が御意として伝えられます。

文化11年秋の武術上覧

月日	武芸
9月4日	剣術（一刀流）
9月7日	剣術（無念流）
9月25日	砲術
10月5日	弓馬
10月9日	剣術（無方流）
10月11日	鎗術（無方流・種田流）



徳山毛利家文庫「記録所日記」675 文化11年9月7日条。剣術上覧のうち、「無念流」の上覧に関するものです。以下、数丁にわたり競技者名が列記されています。